

## 令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	24	学校名	伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校	校長名	松本 仁美
------	----	-----	----------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心①	命の尊厳と安全の確保、一人ひとりの成長を促すための取組	経営計画に基づき、生徒の命が守られていると答える教職員や保護者（AB100%）	アンケートより 教職員 AB100% 保護者 AB100%	A	○ヒヤリハット事案について、迅速に全体で共有することで大きなケガや事故はなかった。 ○毎月いじめアンケートを実施し、生徒の気持ちや生徒同士の関係について把握できた。 ●熱中症対策は、休憩を増やす、活動時間を短縮する、代替の活動を設定する等、柔軟に対応する。
		信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員（AB100%） お互いの良さに気付き、認め合い協力し合うことができた生徒（AB80%）	アンケートより 教職員 AB100% 認め合い協力できた生徒 AB91.6%	B	○生徒の人権に配慮した指導ができています。 ○人権研修及び自己チェックを実施し、人権意識の向上を図ることができた。 ○生徒同士が互いに自分とは違いがあることを認識し、尊重し合っている。 ●発達段階を考慮した授業実施も生徒の人権尊重に繋がるため、生徒一人一人が分かる、やりがいのある授業作りを実践する。
安全・安心②	命のつながりを実感する食育や健康な体づくりの推進	家庭と情報共有し、生徒の健康な体づくりに取り組んだ教職員及び保護者（AB100%）	アンケートより 教職員 AB100% 保護者 AB100%	A	○週4回10分間走を実施し、生徒の体力の向上が見られた。 ○体調不良等を電話や連絡帳で保護者と情報共有できた。また保健講座をとおして、規則正しい生活や食事の大切さ、スマホの利用の仕方などを啓発できた。 ○自己の体や健康に関する保健指導を毎月実施した。 ●保護者の評価がBがやや多く、引き続き家庭への啓発を行う。
		食と各教科等の関連を意識した指導ができた教職員（AB90%）	アンケートより 教職員 AB100%	A	○栄養バランスの学習と合わせて調理実習を実施し、食育を充実させることができた。調理に取り組んだという報告もあり、家庭とも連携できた。 ○総合的な探究の時間をとおして、地域の産物について調べたり、実際に味わったりしながら学ぶことができた。
安全・安心③	生徒の命を守る安全教育の充実	緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、自分の身の守り方を学んだ生徒、教職員（AB80%）	アンケートより 教職員 AB100% 生徒 AB91.6%	B	○避難訓練や防災学習をとおして、生徒は自分事として身の安全の守り方を学ぶことができた。教員も自分の役割を確認しながら取り組んだ。 ●火災時、非常口及びグラウンドへ向かう歩道に人が集中するため、安全な避難方法を検討する。
専門性①	主体的・協働的・深い学びによって資質・能力を育成する授業実践	小グループでの意見交換をとおして生徒の思考を見取り、授業づくりに生かした教員（AB90%）	アンケートより 教員 AB100%	A	○研修では活発に意見交換ができ、授業改善の視点や考え方を学ぶことができた。 ○一人一授業の実践をとおして、授業者だけでなく参観者も学びを得、自身の授業に生かすことができた。 ●生徒の思考に沿った授業が課題である。さらに研修を進める。

様式第3号

		ラーニングマップ等のツールを活用した授業作りを行い、授業実践と授業改善を行った教員 (AB85%)	アンケートより 教員 AB100%	B	○ラーニングマップを活用して実態把握を行いながら国語・数学の授業づくりに取り組み、実践した。 ●系統立てて学習を進められるよう3年間のつながりのある年間指導計画を立てる。
専門性②	特別支援の専門性向上	障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員 (AB90%)	アンケートより 教員 AB100%	B	○自校、他校の研修会に参加することで、障害理解や自立活動等について考えを深めることができた。 ●生徒の実態把握が十分とは言えない。さらに自立活動に関する研修を深める。
		PCやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB85%)	アンケートより 教員 AB100% 生徒 AB91.6%	B	○情報研修をとおしてICTの活用方法を知り、授業に生かすことができた。 ○ICT機器を使用することで、生徒の学習意欲が高まり、主体的に取り組む姿が見られた。 ●授業準備等が効率化しているとは言えない。AIの有効活用を進める。
連携①	アリの視座での教育の充実	生徒や保護者とともに目標の共有と実現に向けて指導した教員 (AB80%)	アンケートより 教員 AB100% 保護者 AB100%	B	○定期的に面談を実施し、家庭での取り組みと連携させながら、つきたい力を明確にすることができた。 ●3年後の姿を見据えて年間指導目標を考えているが、保護者との共通理解が十分に図れていない面もある。家庭としっかり連携して取り組む。
		生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)	アンケートより 教員 AB100% 保護者 AB100%	A	○生徒に応じた進路に関する情報提供や実習先の提案ができた。 ○ふれあい企業見学会を実施し、生徒が企業の方と直接触れ合う貴重な機会を作ることができた。 ●福祉事業所等の受け入れ人数や事情等により、本人・保護者の進路希望に100%沿うことが難しい面がある。よく話し合い、納得を得られるよう対応する。
連携②	保護者や地域の協力を推進し、地域と歩む	適切な学習を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%) 地域に情報発信できた教職員 (AB80%)	アンケートより 教職員 AB100%	A	○桜葉、桑葉作業をはじめ、地域に出て様々な場面で協働して貢献し、その様子をHPや学校だより等で発信できた。 ●桜葉、桑葉については、作業に取り組むことが主となっている。地域学習としての関わり方を検討し、地域の特産についてじっくり学べるようにする。
		地域の資源や人材を活用した学習活動をとおして、生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者 (AB80%)	アンケートより 教職員 AB91.7% 保護者 AB100% 生徒 AB100%	A	○西豆地域の学習では、実際に現地に足を運んで見学したり味わったりしたことで、生徒は調べ学習だけでは得られなかった知識や経験を得ることができた。 ○松崎高校との交流では、主に行事を通じて実施し、球技大会ではボッチャを合同チームで対戦するようにしたことで、より交流を深めることができた。 ●桜葉や桑葉については、役場やファームの方を授業の講師などに招聘する。
チーム学校①	特別支援の連携強化	センター的機能による成果の整理及び検証 (毎学期)	アンケートより 教職員 AB100%	A	○特別支援教育コーディネーターが地域の学校に出向き、観察と聞き取りから児童生徒の特性や困りごとを整理し、必要な支援について助言することができた。 ○地域の特別支援教育支援員に対して研修を実施し、校内での連携や支援の共有の大切さなどについて伝えることができた。

様式第3号

		学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）	アンケートより 教職員 AB100%	A	○相談支援事業所と連携し、生徒や家庭への支援に対応することができた。また児童相談所や心理カウンセラー等とも情報共有できた。
チーム学校②	教職一人一人が業務をもち、一人一人が責任をもち、一人一人が業務遂行や働き方を推進	キャリアステージと自己評価シートに基づき、自身の役割を理解して分掌や学年の運営等携わった教職員（AB80%）	アンケートより 教職員 AB100%	B	○少ない教員数でも、各自が自分の役割について責任をもって取り組んでおり、学校運営に貢献している。 ●一人一人の教員が抱えている業務が多い。業務の精選と適切な仕事の割振り方を検討する。
		計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員（AB70%）	アンケートより 教職員 AB100%	B	○朝の打ち合わせの時間を取りやめる、必要に応じて会議を紙面開催にするなど、業務の所要時間を短縮する等の工夫ができた。 ●計画性や見通しをもち、仕事の終了の時間を意識して取り組む。